

ハ足利を飯坂の少東佐友房司と名しき一
くり惣神門と訴り茂庭山と名り山平小
て政宗道過くくや思ひんうと名りうのう
その内に入り死を遂過しとく政宗の道や
族くく一は弟後おちうと名りて茂庭系
とて厚く云之しとくやとて政宗のくく
余とのれとく初経て飯坂白石の城へそ
逃入りて將軍と相通ぬ所よりくくとわ
父子松系以下後おちて逃れお前殺せり余
討かりせし上知照るる郡村を逃止にせし

り依まふより初きて二軍のるに政宗の人る死
くひ能く相討ちり少く是の端なりとたり
くり常務の福一の城へ入りて境内の仕置
しとく十日より水遣留あり余はく水原陣に
まかり

系後公内上段の事

系後公長六年其の七月に成りてく尚秋
に諸將を以て水原陣に上りて水原陣の事
くとお相討ありとく系後公天下の大事成る
とくより君は系勝を逆心なくしとく水原に